

豊能広域こども急病センター

ごあいさつ

豊能広域こども急病センター所長

笠原 勝

小児科医師が不足し、今まで各市の市立病院などで実施してきた小児救急診療が出来なくなる恐れが出てきました。そのため平成13年に大阪府、北摂4市2町の担当者、各市医師会、各市立病院、阪大小児科、国立循環器病センター、各市薬剤師会が小児救急について協議を尽くした結果、平成16年4月箕面市に豊能広域こども急病センターを設立することになりました。

このセンターは開院して3年を迎えます

が、毎年4万人ほどのこどもの救急診療にあたっています。開設当初はスタッフ一同慣れないこともあり大変ご迷惑をおかけしましたが、その後の努力により平成18年10月実施の第3回アンケート調査結果では満足度の高い好結果を得ることが出来ました。今後とも更に努力を重ね信頼されるより良き医療を目指していく所存です。

しかし、このセンターはあくまでも急な病気に対応する一時的な診療施設です。こどもの病気は刻々と時間の経過に伴って変化していきます。翌日は必ずかかりつけ医を受診してください。また日頃からこどもさんの病気のことについてはかかりつけ医とよくお話しをしていただき、急な病気にあわてることの無いように備えておくことも大切です。

今回当センターでは、ホームページ上で



ニュースを発行することにしました。小児救急の現状や、こどもさんに関する病気など、保護者の皆さまに知っていただきたいことを掲載していきたいと思っています。

今年はノロウイルスが流行！！

「急に吐きはじめて…」とお子さんを抱えてセンターに駆け込んでくる親御様は後を絶たず、受診表の症状欄は嘔吐が大半を占めており、点滴をする観察室も連日、満杯状態です(2006年12月現在)。ノロやロタウイルスなどの感染性腸炎は人から人へ移ります。そこで今回は家庭での感染予防を紹介いたします。

充分な手洗いうがいを行いましょう。

手を洗うときは、手の平だけでなく手の甲や指と指の間、爪のすき間も十分に洗うよう心がけて下さい。また洗い終わった後は石鹸を十分に洗い流しましょう。

汚染された着類は塩素系漂白剤(ハイターなど)でのつけおき洗いが効果的です。

汚染されたものをさわるときは、素手ではなく使い捨てのゴム手袋を使用することをおすすめします。

吐物等で汚染された場所は、塩素系漂白剤での水拭きを広範囲に行ってください。

目に見えなくても吐物は広範囲に散っている可能性があります。ウイルスは乾燥すると、空気中に舞い上がり空気感染の危険があります

～ を家庭で励行してもらい、家族に移らないようにする事が大切です。

病院などに行かれる場合はオムツや着替えを余分にもっていき、万が一、吐いた時などは便利ですよ。抱いている時に嘔吐する事も多いですから、親御さんの着替えもあるといいですね・・・!

看護師 青戸 照子



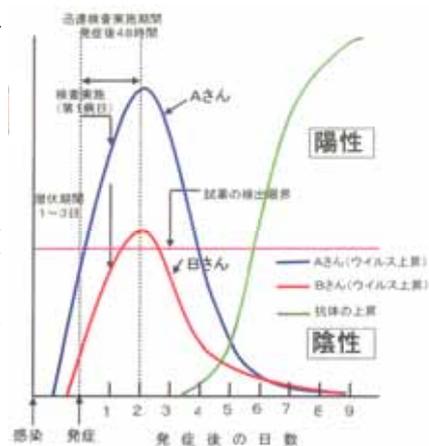
インフルエンザ は冬場に流行する感染症のひとつです。当センターにおいても疑わしいお子様にインフルエンザの検査をさせていただいています。この検査は発症から24時間以降での検査が推奨されていますが、その理由についてご説明させていただきます。

ご存知ですか？ インフルエンザ検査に適した時期を・・・

図はインフルエンザウイルスの量が時間とともにどのように増えてくるかを示したものです。ごらんのようウイルスの増加量は個人差があり、発症早期ではウイルス量を検出するに十分な増殖が無く、偽陰性となることがあります。

流行中には検査の結果のみではなく、症状を診てインフルエンザの診断をすることはこういった理由です。

インフルエンザウイルスの検査や治療については、そのときのお子さんの状態に合わせて行いますので、お子さんによって異なる診療内容となることもあります。受診時には、医師、看護師、薬剤師の説明を十分にお聞きください。



発症後、12時間から48時間以内が検査に最適です。

小児医療をめぐる

豊能広域こども急病センターが開設されてから2年半あまりが過ぎました。豊能地域の4市2町(豊中市、吹田市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)はもちろん、周辺自治体から受診される方も含めて一日平均100人前後のこどもたちがここで時間外診療を受けています。利用した多くの方から「夜間・休日に小児科医に診察してもらえるところがあるので安心、ありがたい」という声が寄せられています。しかし、「自宅から遠い」「以前なら地元の市民病院で診てもらえたのに」とおっしゃる方もおられます。

確かに2004年4月までは豊中、吹田、池田、箕面のいずれの市民病院も小児の時間外救急を行っていました。しかし、それぞれの病院の小児科常勤医の数は多いところで9人、少ないところでは5人しかいません。9人いる豊中には新生児集中治療室(NICU)があり、そちらの当直も行う必要がありますので、いずれの病院もスタッフだけで当直すると一人の医師が月に7回くらい当直しないといけない計算になります。医師の当直は夜勤扱いではないので、当直の日も日中も普通に仕事をした後そのまま夜間の当直業務をしています。せめて当直明けの日は早く帰ることができたらいいのですが、ほとんどの病院は人手不足なので、寝不足のままさらに仕事が夕方～夜まで続くのです。

このような当直を月に7回も行うことはあまりに過酷なので、これらの4病院には大阪大学小児科から当直の応援医師を派遣し、個々の医師の当直回数が4～5回以内となるように支えてきました。しかし、マスコミでも報道されているように、小児科医の不足がどんどん深刻となってきている中で、大阪大学小児科とその関連施設(上記4病院以外にも多くあります)でも小児科医の減少が目立つようになり、十

分な応援医師の派遣を続けることが難しい状況となってきています。

このような小児科医不足は全国的な現象であり、大きな社会問題となっています。政府も対策を講じてはいますが、いずれにしてもすぐに小児科医が増えることはないのです。いかに残された小児科医で時間外診療も含めた小児医療を支えていくのかを考えなければなりません。そのための方策のひとつとして「集約化」が提唱されています。これは、小児科診療を行う基幹病院を地域ごとに決めて、そこに小児科医を集め、患者さんたちにも集まってきてもらうことによって限られた医師数でもその地域の小児医療を維持できるという考え方です。この豊能広域こども急病センターは、小児の時間外救急における集約化のモデルケースとなっています。

当センターの診療はのべ90人の医師によって支えられており、そのおよそ4割を地域医師会から、4割を大阪大学から、2割を国立循環器病センターからそれぞれ派遣されています。集約化といっても実際にはこれほど多くの小児科医が協力して初めてセンターの運営が成り立っているのです。当センターはモデルケースとして全国的にも注目されていますが、これだけの医師数を確保することが非常に困難であるため、同じような急病センターを作りたくても作れない地域がほとんどなのです。

当センターが開設されてから、個々の市民病院の小児科医の負担は明らかに軽減しました。当直の回数は以前より増えても、一晩中救急外来から離れられない、寝られないという



このコーナーでは、当センターに勤務しておられる医師会の先生方からのコラムを掲載していきます。読者の皆様の中にはご存知ない方もおられると思いますので、少し説明させていただきますが、医師会の先生方はご自身のクリニックを終えた後に当センターでも勤務していただいています。

【長い一日】

豊中市医師会 地寄剛史

あと15分。絶え間なく訪れる子どもたちの診察がやっと途切れ、一息ついて時計を見るともう少しで日付が変わろうとしています。

今日は朝から私の診療所でもバケツを抱え青い顔で吐き続けている児が訪れ、点滴用の部屋がフル回転をしていました。この様子だと急病センターも多量だろうな、との予測は見事に的中。午前

診を終え遅い昼食を慌ただしく済ませ少しの休憩の後、急病センターに到着すると、待合室はバケツやビニール袋を持った子どもたちで溢れていました。

次々に診察室に呼び入れられる子どもたちと、薬を処方するパソコンの画面の間を忙しく視線が移動し続けるうち、いつの間にか5時間が経過、時計の針は午後11時45分を指していました。あと15分。午前0時からは当直医に後を任せ、私の長い長い一日が終わりに向かいます。明日も忙しくなりそうです。

「母の胸に顔を埋めて吐く子診る眠ることなき急病センター」

家路を急ぎ、車のハンドルを握りながらの一首です。

Q & A

患者様からいただいたアンケートの内容や感謝のお手紙、苦情に対する回答などを掲載するコーナーです。

Q: センターでは、お薬をなぜ1日分(若しくは休日分)しかもらえないのですか？

A: 当こども急病センターでは、夜間・深夜・休日など「かかりつけ医」(日ごろかかっている医院や診療所など)を受診できない時間帯に急な症状でしんどくなられたこどもたちを診察する施設です。急場をしのぐために必要な処置を行い、今後どのように対応することが望ましいのか、また当面注意すべき点はどういったところかをお話させていただくことが主となります。

どのような病気でも薬を飲んですぐに治ってしまうものではありませんし、時間の経過とともに病状も変化していくことがありますので、当センターを受診された翌日や休日明けにお子さんのことをよくご存知の「かかりつけ医」を受診され、病状を診ていただくことが、病気になったこどもたちにとって一番望ましいことです。

ようなことはなく、入院患者さんの治療に専念できるのです。その結果、市民病院を利用している患者さんたちにも、より安心・信頼していただける医療を提供できるように

なっと思います。

こどもたちの健やかな成長を守るため、小児科医・看護師をはじめスタッフ一同がんばっていますので、どうかご理解とご協力をお願い致します。

大阪大学附属病院小児科
恵谷 ゆり



受付(診療)時間

平日

18:30～翌6:30
(診療開始は19:00からです)

土曜日

14:30～翌6:30
(診療開始は15:00からです)

日曜・祝日・休日

年末・年始(12/29～1/3)

8:30～翌6:30
(診療開始は9:00からです)

編集後記

豊能広域こども急病センターニュースの第一号はいかがでしたでしょうか。最近報道されている医療に関するさまざまな特集をみてみると、ひとつひとつが一面の情報提示にとどまってしまう、問題提起に対する解決策や道筋が提示されないままに終わっている場合がみられます。小児医療の現場にたずさわっている私たちは、こども達の健やかな毎日を心から願い、病気と闘っているこども達とその家族の支えができるように、日々がんばっています。決して問題ばかりがあふれているのではなく、毎日どこかでたえ小さなことでもHappyな、笑顔あふれることが起きていると思います。本ニュースを通して少しでも小児医療の実際を伝えることができればと思います。最後に、小児科医にとってもっとも忙しいシーズンに、こころよく筆を執っていただいた諸先生方にこの場をかりて陳謝いたします。ご協力ありがとうございました。

大阪大学小児科 北岡太一

